

2018年11月5日  
横浜歴史研究会  
進藤洋輔

## 小机城址を訪ねて

### 1、小机城址迄の道筋

JR 横浜線小机駅北口に出て、線路沿いに西に歩いて行くとこんもりとした小山が見えてくる。現在は小机城址市民の森として地元のみならず多くの人々の散策場所となっている。しかし、一歩足を踏み入ると見事な竹林に囲まれた静かな佇まいながら、本丸、二の丸をほぼ原型に近い形で残し、その堀の深さ、壮大さは往事の堅固な城を彷彿とさせる。東国を代表する戦国期の土城の名城（ぶらり東京近郊の名城・古城より）がこの小机城なのである。



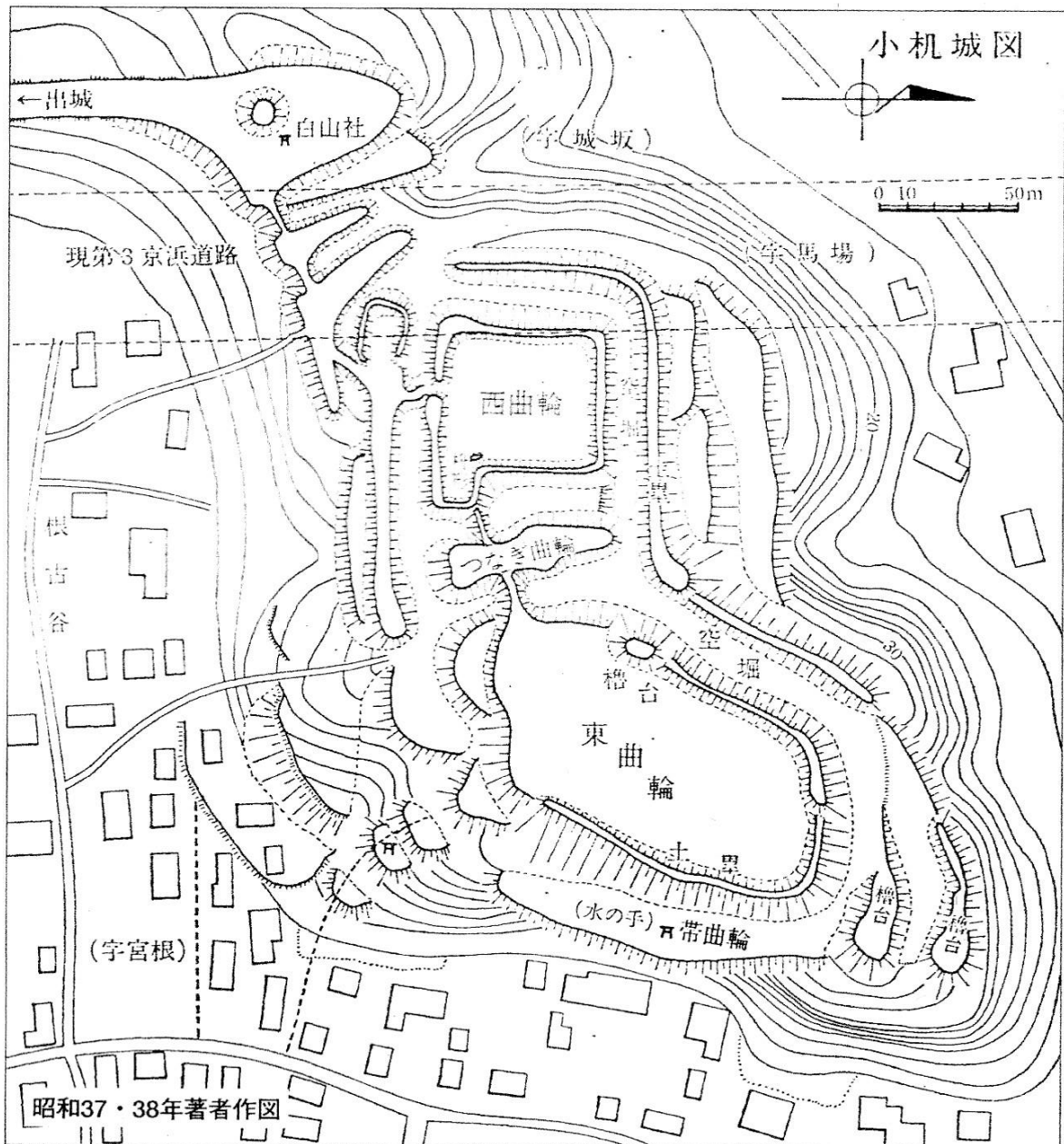
(地図はインターネットより借用)

ここ小机は、鎌倉と上野・下野・武蔵の各地を結ぶ中継点であると共に、目

の前を流れる鶴見川の水運を利用し、監視できる水陸の重要拠点であり、それがここに城が築かれた理由だったのであろう。鶴見川は、鎌倉にとって重要な守備ラインだったのである。

## 2、縄張り図の紹介

いよいよ小机城の縄張り図を参照しながら城郭内部に入ろうと思う。

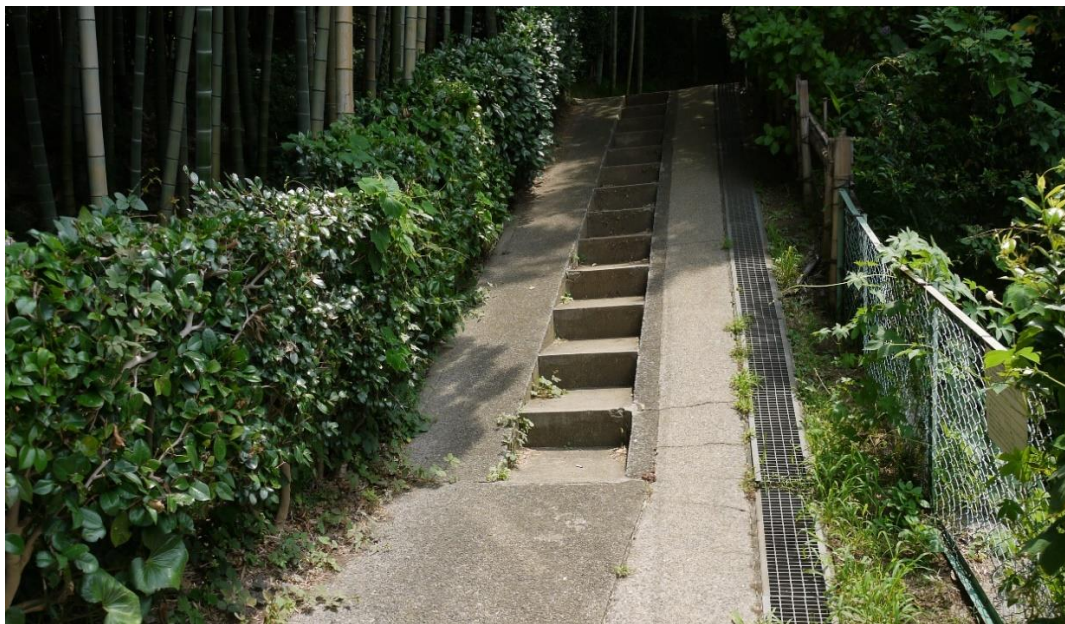


(東京近郊の名城・古城 西ヶ谷恭弘著)

頭上に点線で表されているところは第3京浜道路である。今の時代なら、開発にもう少し気配りが出来たであろうと思われるが、見事に切り崩されてしまっ

ている。第3京浜より先は、最早城の風情はなくその先には宅地が広がっている。ただ眼下に広がる鶴見川とその周辺の景色は、小机城の高さと威厳を意識させるには、十分なものとなっている。

ここからは、この縄張り図と写真を対比しながら小机城を紹介していこうと思う。(尚、今回の発表は、映像に頼る部分が多いが、印刷物では、カラー表現が出来にくいためプロジェクターに頼る結果となってしまっていますのでご了解ください。レジメの画像は枚数を絞っております。)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

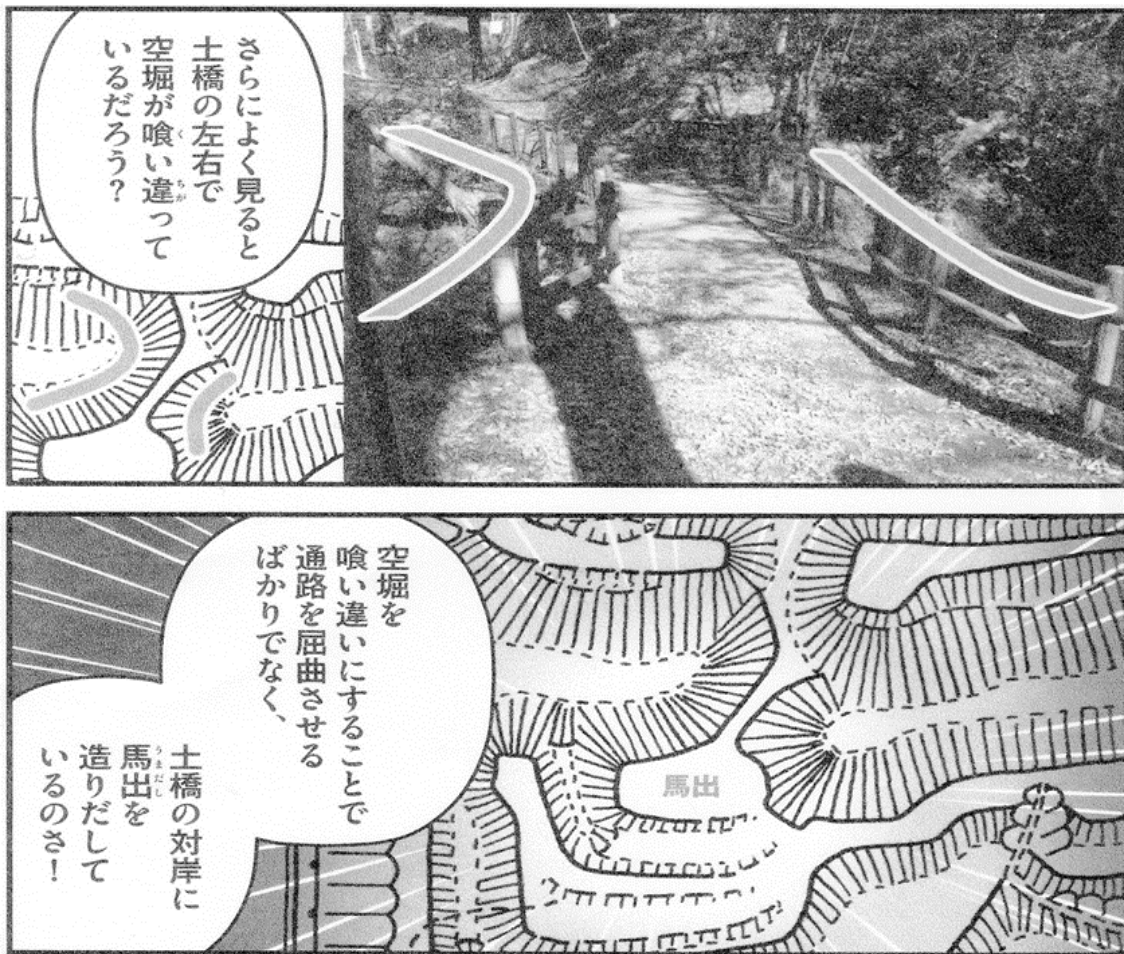




⑬



⑭



⑮（戦国の城の歩き方より引用）

### 3、小机城と太田道灌

小机城の築城年月と築城者ははっきりとはしていないが 歴史上その名を登場させるのは、太田道灌による小机城攻め以来のようだ。

文明 5 年(1473 年)6 月山内上杉氏家宰の長尾景信が死去するが、その後継の決定に不満を持ったのが嫡男長尾景春である。景春は直ちに自らの軍勢を引き連れて上杉陣営の五十子陣（埼玉県本庄市）を離れて鉢形城（同寄居町）に拠り主君である管領上杉氏への反意を鮮明にしたのである。そして文明 9 年（1477 年）正月、景春は鉢形城を出て五十子陣を急襲、不意を突かれた上杉方は上野方面へ逃走、この景春の挙兵を「長尾景春の乱」と呼ぶ。

景春が、山内上杉方の武将であった豊島氏等を味方にとすると、南武蔵から相模国の国衆も動揺して、それに味方しようとするものも少なくなかった。国衆とは、鎌倉時代の地頭等の子孫で有力な在地の大豪族を指す。小机城の矢野兵庫助（長尾家の家来？）も山内上杉方の武将であったが景春に味方し、ここに

登場する太田道灌と敵対することになる。

太田道灌は扇谷上杉家の家宰として上杉に反旗を翻した景春と対峙することになったが、最も脅威であったのは江戸城に隣接する豊島氏との抗争であった。そのため、先ず攻略の対象となったのが、豊島氏が籠もる石神井城である。石神井城は、道灌の居城である江戸城と、上杉氏の拠点である河越城を結ぶルートの中に位置していたことからその確保は極めて重要であり、そのため道灌はこれを攻め文明9年（1477年）4月28日、石神井城を陥落させた。

しかし、戦いはこれで終わりではなかった。文明10年（1478年）正月、前年の石神井城落城の際に逃亡していた豊島泰経が、江戸城近くの平塚（東京都・北区）に城を築き再び江戸・河越間のルートを遮断しようとしていたのである。そのため道灌がこれを攻めると豊島勢は丸子まで撤退、さらに追うと鶴見川を越えた小机城に籠城したのである。

これを追撃した太田道灌は正月末小机城に殺到し鶴見川対岸に亀甲山城を築いて2月6日から小机城を攻め立てた。小机城では、必死の防戦に努めたが、2ヶ月後4月11日には陥落し、矢野氏は逃亡、泰経は行方不明となり豊島氏は滅亡したのである。この戦いで、太田勢は城方より劣勢であったが、道灌は、近くの松の木に腰掛け「小机はまず手習いの初めにて、いろはにほへと、ちりぢりとなる」と詠い兵士を励ましたと言われている。（横浜の戦国武士達、下山治久著・関東戦国全史、山田邦明編）また、道灌は敗者に対して情け容赦なく、捕らえた多くの残兵を磔刑に処した。その血で村の田畑が赤く染まったともいう。

太田道灌は上杉の一族の武将として、次々と業績を上げ、他の武将の信も厚かったため、山内、扇谷両上杉の疑心暗鬼を招いたのか、文明18年（1486年）7月主君である扇谷上杉定正によって暗殺される。道灌は暗殺者に切りつけられたとき「当方滅亡」と叫んだと伝えられる。（図説太田道灌）悲劇の武将たる所以である。

小机城は、道灌により滅ぼされた後一端廃城となるが、やがて後北条氏の勢力下に置かれ、特に北条2代目北条氏綱の時代に小田原の支城として整備されていく。氏綱は、笠原越前守信為を城代として城の改築を命じた。今の城の周囲に残る土塁や空堀は、その頃築かれたものと言われる。笠原氏は、この後も城代として代々その任にあたり、小机4人衆（小机土着の武士集団・沼上久兵衛・鈴木加左衛門・野呂十右衛門・藤井六右衛門・佐川七兵衛のなぜか5人？）と共に支配領の在地支配に当たった。さらに小机城には小机衆と呼ばれる28名の武士団が組織され、いざ事あるときは一丸となって軍団を組織したのである。今も茅ヶ崎城等小机衆に属していた武士団の居城跡が残されている。

但し小机城の繁栄はここまでで、以降豊臣秀吉の小田原攻め（このとき小机衆が率いた武士団は、全て小田原に詰め、小机城が戦火にさらされることはな

かったようである。) さらに関東への家康の入府により、城としての役目を終え  
廃城となっていく。

#### 4, 最後に

小机城址のことを様々に調べていくうちに、少なからず太田道灌の人となり  
惹かれるものがあった。今後、小机城への関わりのみではなく、その生涯全般  
に調査を進めてみたいと思う。

以上

#### 「参考文献」

- |  |                   |
|--|-------------------|
| ○ ぶらり東京近郊の名城・古城  | 西ヶ谷恭弘著 PHP 研究所    |
| ○ 戦国の城 上・関東編   | 西ヶ谷恭弘著 学研         |
| ○ 戦国の城の歩き方   | 西脇 総生著 kk ベストセラーズ |
| ○ 横浜の戦国武士達   | 下山 治久著 有隣堂        |
| ○ 関東戦国全史   | 山田 邦明編 洋泉社        |
| ○ 小机城址ガイドマップ   | 港北観光協会            |
| ○ 小机城址市民の森   | 横浜市環境創造局          |
| ○ 小机城の歴史と魅力を語る   | 大倉精神文化研究所<br>平井誠二 |
| ○ 小机城址と雲松院   | 雲松院パンフレット         |
| ○ 多摩丘陵の古城跡   | 田中祥彦著 有峰書店新社      |
| ○ 私説・小机城はまた眠る  | 西岡次郎 まつ出版         |
| ○ 図説・太田道灌  | 黒田基樹 戒光祥出版        |
| ○ 港北観光協会 ホームページ  |                   |
| ○ インターネット上の小机に関する資料多数  |                   |
| ○ 最後に当会会員であり、小机在住の山田孝さんから、資料を頂戴するとともに<br>ご助言、ご指導を頂戴いたしました。ありがとうございました。 |                   |